

職場は森の広告塔

館内に足を踏み入れると、新築の家畜に特有の木々の香りが漂い心地よい。天井の梁(はり)や壁面、バルコニーなどにはふんだんに木材を使用した。木目の装いは見た目にも優しい。

耐火木造のオフィスビル 大阪市

今年3月、木造3階建てのオフィスビルが大阪市西区南堀江に出現した。大阪木材仲買協同組合の新館だ。56年前に完成した旧館を建て直すに当たり、竹中工務店が提案したこの設計案を採用した。同

組合の雪本政通理事長は「11階建て時に植樹した桜が早々と咲き誇り、緩やかなカーブをもつ建屋が包み込むように配置している。2階ほど突き出した軒は2階と3階のバルコニーに陰を生み出し、夏場の直射日光を遮る。竹中工務店大阪本店設計部の白波瀬智幸氏は「和風のよさをうまく引き出した」と解説する。



国内初となる3階建て耐火木造のオフィスビル。心地よい木の香りに包まれる



外観も木材を生かした造りに

現場百景

延べ床面積は約1000平方メートル。木造とはいえ、展示スペースと駐車場を配置する1階だけは巨大地震の際の津波対策を考慮してコンクリート造りにした。2階に事務所、3階に50人が入れる会議室などを備えた。室内空間は暖かみにあふれ、会議も和やかに進められそう。工事を担当した平池拓美氏は「普段の工事に比べ、傷を付けないよう気を配った」と話す。

都市部の防火地域で大型の本造建築物を建てるのは非常に難しかったが、学校や病院など公共建築物「国内の木材の利用を促す」公共建築物等に関する法律「が2010年に制定。流れが少し変わった。この機を生かそうと、セネコンや住宅メーカーは資材や工法の開発に力を注ぐ。

竹中はカラマツによる集成材を3階構造にした「燃エンウッド」を1年に開発した。板を張り合わせた集成材の周りを耐火性の高いモルタルで囲み、その周囲をもう一度集成材でくるんだ。火災を想定した1時間の耐火試験では、中心の集成材は燃えず強度が落ちない性能を証明した。柱



大阪木材仲買協同組合の組合員数は現在551人。全国でも最大規模だ。しかし木材消費の伸び悩みで、25年前の1000人からほぼ半減した。このところの地球温暖化問題で二酸化炭素(CO₂)吸収源として森林の見直しと呼ばれている。「新館を見て木材のよさに気付いてもらえるところうれしい」。雪本理事長は林業再開のきっかけになればと願っている。

文 編集委員 永田好生
写真 沢井慎也